

動 向 編

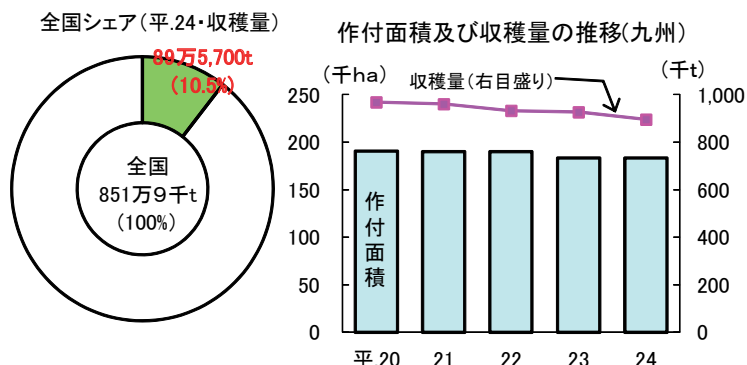
第1章 九州農業の主要指標の動き

1 主な農作物生産の動き

(1) 水稲

平成24年産水稲は、出穂期以降おおむね天候に恵まれ登熟は順調に推移したものの、田植期以降の日照不足等による初期生育の遅れや台風及び病虫害の被害が見られたことから、作況指数は97、収穫量（子実用）は89万5,700 tとなりました。

図1-1 水稲収穫量等の動き

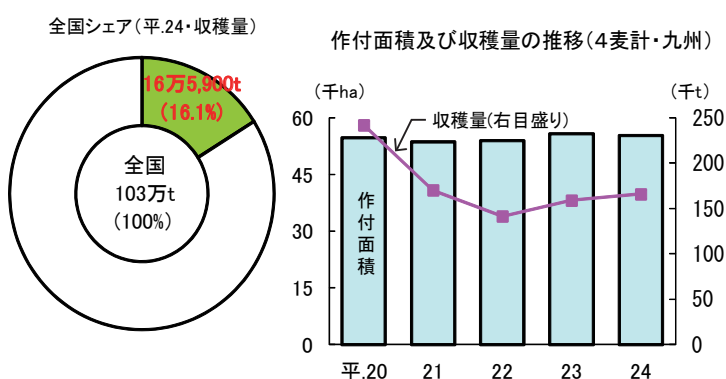


資料：農林水産省「作物統計」

(2) 麦類（4麦）

24年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の収穫量は16万5,900 tで、収穫期の降雨の影響により倒伏や穂発芽の発生が多かった前年産に比べて6,900 t（4%）増加しました。

図1-2 麦類（4麦）作付面積等の動き

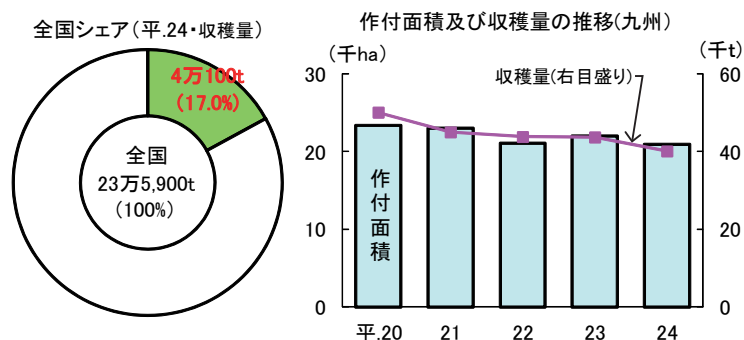


資料：農林水産省「作物統計」

(3) 大豆

24年産大豆は、他作物への転換による作付面積の減少やは種の遅れから着さや数が少なかったことにより10 a 当たり収量が低下したことから、前年産に比べて収穫量は3,600 t（8%）減少し4万100 tとなりました。

図1-3 大豆作付面積等の動き



資料：農林水産省「作物統計」

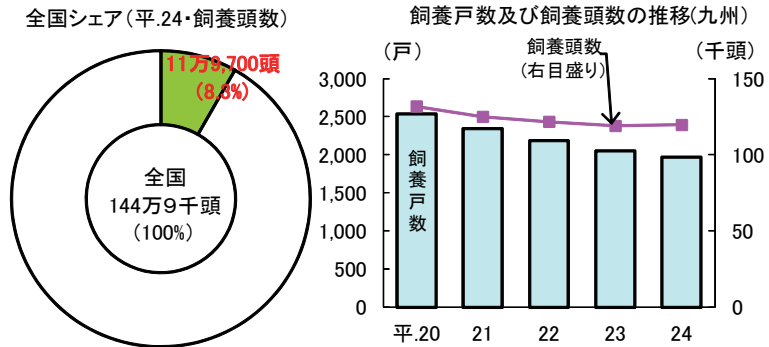
2 主な畜産の飼養頭数の動き（平成24年2月1日現在）

（1）乳用牛

飼養戸数は1,970戸で前年に比べて80戸（4%）減少しました。

ただし一戸当たり頭数は増加しており、飼養頭数も11万9,700頭と、前年に比べて600頭（1%）増加しました。

図1-4 乳用牛の飼養頭数等の動き



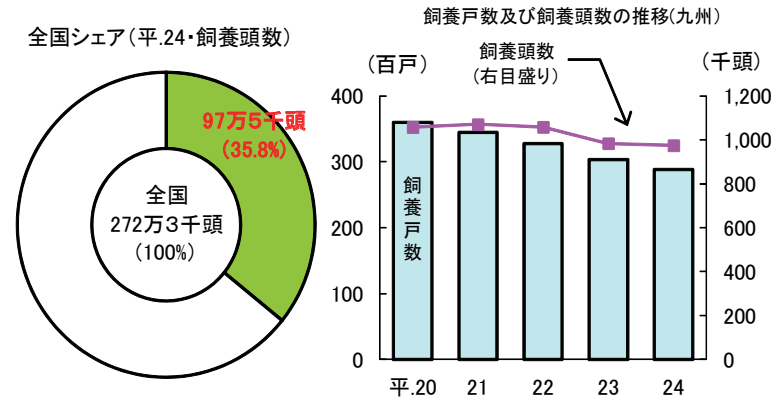
資料：農林水産省「畜産統計」

（2）肉用牛

飼養戸数は2万8,800戸で前年に比べて1,600戸（5%）減少しました。

飼養頭数は97万5千頭で、前年に比べて9,100頭（1%）減少しました。

図1-5 肉用牛の飼養頭数等の動き



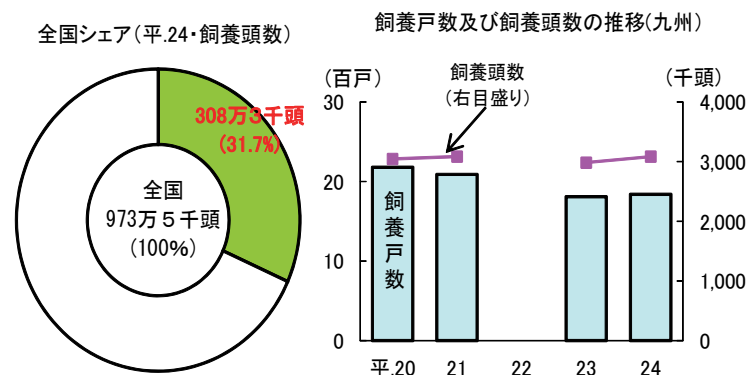
資料：農林水産省「畜産統計」

（3）豚

飼養戸数は1,840戸で、前年に比べて30戸（2%）増加しました。

飼養頭数は308万3千頭で、宮崎県の口蹄疫からの飼養再開により前年に比べて10万1千頭（3%）増加しました。

図1-6 豚の飼養頭数等の動き



資料：農林水産省「畜産統計」

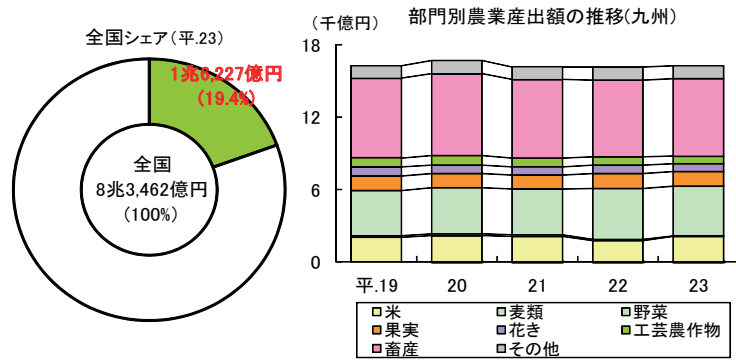
注：平成22年はセンサス年のため調査を実施していません。

3 農業産出額の動き

平成23年の農業産出額は1兆6,227億円で、野菜、果実の産出額は前年に比べて価格の低下により減少したものの、米及び畜産物の価格上昇により総額では前年に比べて101億円（0.6%）増加しました。

また、県別にみても、福岡県2,177億円（全国14位）、佐賀県1,243億円（同26位）、長崎県1,421億円（同22位）、熊本県3,113億円（同5位）、大分県1,331億円（同23位）、宮崎県2,874億円（同7位）、鹿児島県4,069億円（同3位）となっています。

図1-7 農業産出額の動き



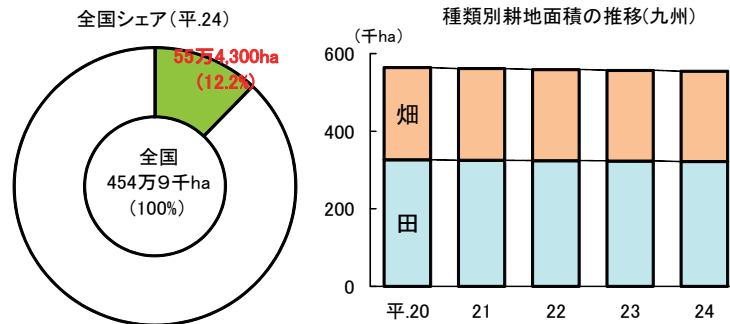
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

4 農地の動き

平成24年7月15日現在の耕地面積は55万4,300haで、前年に比べて2,600ha減少しました。

種類別にみると、田が1,400ha、畑が1,100ha、それぞれ減少しています。

図1-8 耕地面積の動き

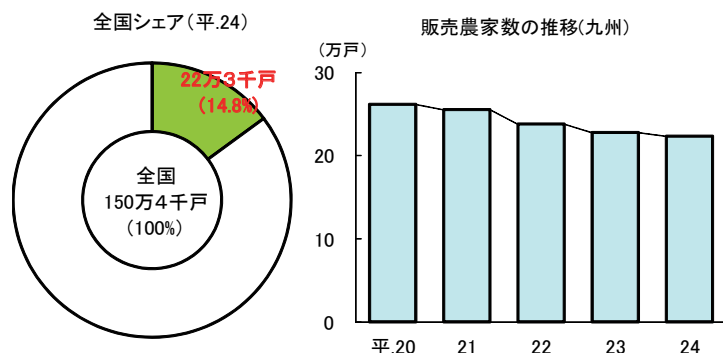


資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

5 農家数の動き

平成24年2月1日現在の販売農家数は22万3千戸で、前年に比べて5千戸（2%）減少しました。

図1-9 農家数の動き



資料：農林水産省「農林業センサス」、「農業構造動態調査」